

出遅れ修正機運高まる日経平均株価

ポイント① 日経平均株価が一時3万台回復

9月7日の日経平均株価は、新政権に対する期待感から上昇基調が継続し、3万円の大台を一時回復しました（9/7午前執筆時点）。最近の動きで注目されるのが、日経平均株価の出遅れ修正の動きです。今年に入り日経平均株価をTOPIX（東証株価指数）で除して算出するNT倍率は低下傾向（TOPIX優位）を辿っていました。ただ、足元で同倍率は上昇に転じており、日経平均先物などへの買いが相場を押し上げる展開となっています。年初からの海外勢の指数別売買差額累計（先物）をみると、TOPIXよりも日経平均の売りが目立っており、8月第4週までで差し引き1.1兆円を超える売り越し状態にあります。政局期待で日本株の先高観が強まる中、需給面の構図を考えると先物主導による日経平均優位の展開となりそうです。

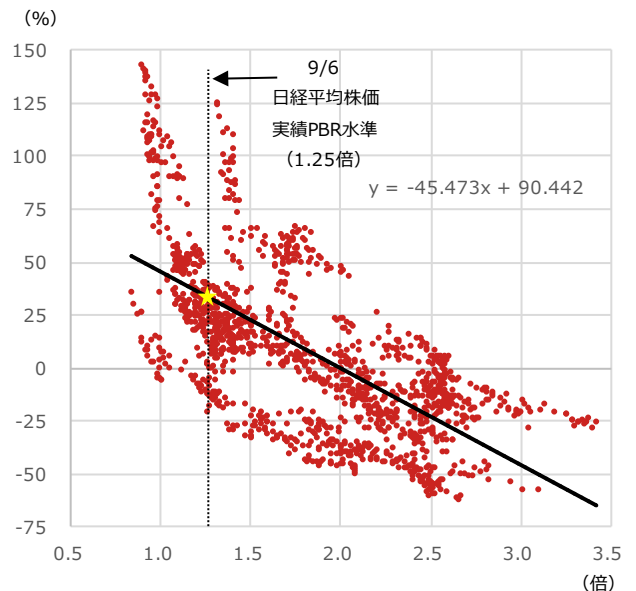
ポイント② PBR・PER面で依然投資妙味

足元の急ピッチな株価上昇で短期的な過熱感を意識する投資家も多いとみられます。ただ、長期的な視点でみると、日経平均株価の実績PBR（株価純資産倍率）は6日時点で1.25倍と歴史的にみて依然割安な水準にあります。同PBRと日経平均株価騰落率の関係を見ると、現在のPBR水準で日経平均株価に3年間投資したと仮定した場合、3年後に株価が上昇しているケースが多く、回帰分析から推計した3年間の過去リターンは30%超となっています（右下図）。同予想PER（株価収益率）も6日時点で13.74倍と、コロナショック前までの過去5年平均[※]（14.21倍）を下回っている状況です。需給やバリュエーションなどを勘案すると、日経平均株価には一段の上値余地が期待できそうです。

日経平均株価とNT倍率



日経平均実績PBRと日経平均騰落率



※2015年初からコロナショックが起きる2019年末までの5年間の日経平均予想PERを平均。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。